

イベントレポート 『2011 K耐久東海シリーズ 第4戦』

開催日 2011年10月16日(日)

13:00 決勝スタート 16:00 チェッカー

天候 晴れ

最高気温 25.1℃(14時)

場所 スパ西浦モーターパーク

参加台数 31台

前日から降り続いた雨は朝方には止み、秋晴れの中で行われた第4戦。自動車メーカー関連企業の土日出勤体制が9月で終わったこともあり、今回は31台のエントリーと以前の賑わいを取り戻した。

中でもKNNクラスは新規参加2台を含む6台がエントリー。またKNOクラスは最多の9台がエントリーし、激戦を繰り広げた。



■ KNNクラス(軽NAのノーマルクラス)

今回は新規格のアルトバンが新たに1台エントリー。また主催者特認でトヨタ S800 もこのクラスに編入され、トータルで6台のエントリーとなった。

開幕より3連勝のNo.100「HACもらいものビート」は、今回40Kgのハンディーウエイトを搭載しての走行。

3戦連続で2位のNo.39「ステージワンレーシングアルトV」、3戦連続3位のNo.444「team YKSR ALTO」ともトップとの差はわずかであるため、ウエイトを搭載したNo.100号車を追撃するチャンスといえよう。

初参加のNo.35「ZOURALレーシングアルト」、2戦ぶりに参加のNo.383「カワセミブルーミニカ」も、新規格軽自動車に与えられるハンディータイムを活かして上位に食い込みたいところである。

■ 予選

予選1番手のタイムをマークしたのはNo.100「HACもらいものビート」。40Kgのウエイトハンディーをものともせず1'11.904をマークする。

予選2番手はNo.39「ステージワンレーシングアルトV」。タイムは1'12.411と前回の予選から1秒近くタイムを上げてくる。

3位にはNo.444「team YKSR ALTO」が1'13.633で入り、これに遅れること僅か0.03秒の1'13.664の4位には初参加のNo.35「ZOURALレーシングアルト」が続き、上位チームにプレッシャーを与える。

以下5位のNo.383「カワセミブルーミニカ」は1'14.534、6位のNo.340「ヨタ8タス号」は1'26.559を記録する。



■ 序盤

1 時間が経過時点では、予選 3 番手からスタートの No.444「team YKSR ALTO」が 29LAP でトップに立つ。これを同一周回の 20 秒差で No.100「HACもらいものビート」が追いかける。

続く 3 位から 5 位までは 28 週の同一ラップで、3 位に No.39「ステージワンレーシングアルトV」、4 位に No.35「ZOURALレーシングアルト」、5 位に No.383「カワセミブルーミニカ」と続き稀に見る混戦模様となる。

6 位の No.340「ヨタ8タス号」は 22LAP と少し差が開いてしまう。



■ 終盤

レースは序盤に赤旗が続いたが、中盤以降は落ち着いた展開となる。2 時間を経過したところでは No.100「HACもらいものビート」が 1 位の座を奪い返し、周回数は 64LAP を記録。

しかし 2 位になった No.444「team YKSR ALTO」も 64LAP の同一周回で、その差はわずか 19 秒。あと 1 時間あることを考えると、まだまだ優勝は射程圏内。

3 位には No.35「ZOURALレーシングアルト」が浮上してくる。周回数は 63LAP と、こちらもトップ争いを視野に入れた位置に付ける。

4 位の No.39「ステージワンレーシングアルトV」も 62LAP と、まだまだ表彰圏内。

5 位の No.383「カワセミブルーミニカ」は 59LAP、6 位の No.340「ヨタ8タス号」は 48LAP で追い掛ける。



■ 最終結果

終始トップ争いを繰り広げた No.100「HACもらいものビート」と No.444「team YKSR ALTO」。

最終的に 1 位の座を射止めたのは No.100「HACもらいものビート」であった。40kg のウエイトハンディーを背負いながら 102 周を走りきり、開幕 4 連勝を飾った。

2 位になった No.444「team YKSR ALTO」は、トップから遅れることわずか 14 秒。悔しい準優勝ではあったが、次回に向けて大きな自信を得た 1 戦であったといえよう。

3 位には No.39「ステージワンレーシングアルトV」が 101 周でチェッカーを受け、4 戦連続での表彰台を確保した。

4 位と 5 位は 100LAP 同一周回での戦い。No.383「カワセミブルーミニカ」が No.35「ZOURALレーシングアルト」をわずか 7 秒差で振り切った。6 位の No.340「ヨタ8タス号」も 86 周を走りきり、無事完走となった。

シリーズポイント争いは、開幕 4 連勝を飾った No.100「HACもらいものビート」が、最終戦を待たずしてシリーズ優勝を決めた。2 位争いは 57 ポイントの No.39「ステージワンレーシングアルトV」と、51 ポイントの No.444「team YKSR ALTO」による一騎打ち。最終戦で 2 位の座を勝ち取るのはどちらのチームか。





■ KNCクラス(軽NAのクローズドクラス)

今回は 4 台のエントリーとなったが、全チームの実力が拮抗し、毎回勝者が変わっているこのクラス。

シリーズポイントで頭一つリードしている No.25「アカミネコマル2トゥデイ」は、今回 2 位以上でフィニッシュすれば自力でシリーズ優勝を決めることができる。

これをシリーズ 2 位の No.10「ぽんこつRTトゥデイ」と、3 位の No.911「CRAZYZY JA4 1号」が阻止することが出来るのか。

また新規格軽ながら、前戦で 3 位表彰台を GET した No.81「パイオニア ワコーズ エッセ」は 2 戦連続で表彰台に登ることが出来るのか。



■ 予選

予選 1 位となったのは No.10「ぽんこつRTトゥデイ」でタイムは 1'09.705 をマーク。監督不在の中チーム員が一丸となって、今年初の優勝を狙う。

2 位には No.911「CRAZYZY JA4 1号」が 1'10.394 で、3 位には No.25「アカミネコマル2トゥデイ」が 1'10.593 で続く。スターティンググリッドは非常に接近しており、この 3 台の予選ポジションの差はほとんど無いといえよう。

4 位の No.81「パイオニア ワコーズ エッセ」は 1'16.976 のタイムながら、新規格軽に与えられるピット時間短縮のハンディーを活かし、どこまで順位を上げることが出来るのか。



■序盤

1 時間経過時点では、No.25「アカミネコマル2トゥデイ」が 30Lap でトップに立つ。

2 位の No.10「ぽんこつRTトゥデイ」と 3 位の No.911「CRAZYZY JA4 1号」は、共にトップとは 1 周差の 29LAP。トップを視野に入れながらレースを進める。

また 4 位の No.81「パイオニア ワコーズ エッセ」も 28LAP と、まだまだ上位を狙えるポジションをキープする。



■終盤

スタートから 2 時間が経過すると、66LAP で 1 位の No.25「アカミネコマル2トゥデイ」が 2 位以下をじわりと引き離してくる。

2 位には No.911「CRAZYZY JA4 1号」が浮上してくるが、64LAP と 2 週の差を付けられる。

3 位の No.10「ぽんこつRTトゥデイ」も 2 位から約 50 秒遅れながら、64LAP の位置に付け、ラスト 1 時間での逆転に望みをつなぐ。

4 位の No.81「パイオニア ワコーズ エッセ」も 63LAP と、表彰台への希望を残す。



■最終結果

実力拮抗のKNCクラスを制したのは、No.25「アカミネコマル2トゥデイ」。106 周を走り切り、今季 2 勝目をあげた。

終始競い合った 2 番手争いを制したのは、No.10「ぽんこつRTトゥデイ」で、103 周でチェッカーを受けた。

No.911「CRAZYZY JA4 1号」は 2 位から遅れること 1Lap の 102 周で、惜しくも 3 位となった。

4 位の No.81「パイオニア ワコーズ エッセ」も周回数は 101LAP と 3 位まであとわずかであった。

今回 No.25「アカミネコマル2トゥデイ」が 1 位となったことで、シリーズ優勝を確定した。

しかし、シリーズ 2 位は 5 チームに可能性が残っており、最終戦ではシリーズ順位を巡る熱い戦いが繰り広げられそうである。



■KNO クラス(軽NAのオープンクラス)

シリーズポイント争いでは、No.50「ベストライフトゥデイ」がここまで2回の優勝で、頭一つリードしている。今回の結果次第では最終戦を待たずしてシリーズ優勝を決める可能性もある。

これを追いかけるのが No.23「チームミニトゥデイ」、No.99「チームオーシャンズトゥデイ」、No.69「タカタCCMCトゥデイ」の3チームで、No.50に待ったをかけることができるのか。

また今回は、ビートが1台と、NAエンジンのカプチーノが1台エントリーし、これらのマシンがどこまで健闘するかも見所となった。

9台エントリーの激戦区を制するのはどのチームか。



■予選

予選1位のポジションを獲得したのは No.296「小山輪業トゥデイKR-O」で、タイムは1'05.759を記録。総合でも2番手と最前列のグリッドを確保するが、このチームは排気量アップのために、ピット時間30秒加算のハンディーを背負っている。

2位の No.23「No.23「チームミニトゥデイ」は、トップから遅れることなくわずか0.14秒の1'05.892のタイム。

3位には第2戦の勝者 No.69「タカタCCMCトゥデイ」が1'06.606で続く。

4~6位は7秒台での争いとなる。4位に1'07.117の No.99「チームオーシャンズトゥデイ」、5位に1'07.568の No.90「ガレージライトトゥデイ」、6位に1'07.568の No.50「ベストライフトゥデイ」と続く。

唯一のビート No.910「CRAZYZYレーシングビード」は1'10.387での8位、NAエンジンのカプチーノ No.124「カプチーノNA21 CLR」は1'11.987での9位からのスタートとなる。



■序盤

1時間経過時点でのトップは No.23「No.23「チームミニトゥデイ」で34Lapをラップする。

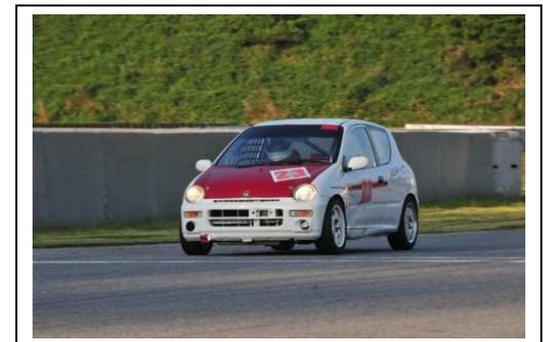
2位には予選7番手からスタートした No.82「フリーストームワークズトゥデイ」が31Lapで大きくジャンプアップ。

3位から6位までの4台は30Lapの同一周回。

3位 No.99「チームオーシャンズトゥデイ」、4位 No.296「小山輪業トゥデイKR-O」、5位 No.50「ベストライフトゥデイ」、6位 No.90「ガレージライトトゥデイ」と続く。

順位の変動が激しいのは激戦区ならではのことである。

唯一のビート No.910「CRAZYZYレーシングビード」は、12周を走行したところでコースアウトし、マシントラブルによりリタイヤしてしまう。



■終盤

2時間が経過したところでも、複数の車両で上位争いが続く。68Lapでの1位は No.50「ベストライフトゥデイ」。これを同一周回で No.99「チームオーシャンズトゥデイ」が追いかける。

3位には67Lapの No.23「チームミニトゥデイ」が続く。またこれと同一の67Lapで4位の No.296「小山輪業トゥデイKR-O」、5位の No.90「ガレージライトトゥデイ」も続き、どのチームが表彰台に登るのか、全く予測が出来ない状態となる。



6位の No.69「タカタCCMCトウデイ」と、7位の No.82「フリーストームワコーズトウデイ」も 65Lap で続き、上位射程圏内の位置をキープする。

NAエンジンのカプチーノ No.124「カプチーノNA21 CLR」は 30Lap でリタイヤとなってしまったが、今後のマシンの進化に期待したい。



■最終結果

トップでチェッカーを受けたのは、110 周を周回した No.69「タカタCCMCトウデイ」であった。ラスト1 時間では6 位にいたものの、前半に義務ピットを消化していたため、終盤で一気に順位を上げての優勝となった。

続く2 位もトップと同一周回の 110Lap。No.50「ベストライフトウデイ」が入り、今回の2 位により最終戦を待たずしてシリーズ優勝を決めた。

3 位と4 位は 109Lap での争いとなった。この争いを制して表彰台をGETしたのは No.99「チームオーシャンズトウデイ」であった。

4 位となったのは No.23「チームミニトウデイ」。惜しくも3 戦連続での表彰台とはならなかった。

予選1 位からスタートの No.296「小山輪業トウデイKR-O」は終始上位に絡みながら、ピットハンディーが重くのしかかり、108Lap での5 位でフィニッシュとなった。

また5 位と同一周回の 108LAP での6 位には、No.90「ガレージトライトウデイ」が入った。

今回の結果を受けシリーズ優勝は確定したものの、シリーズ2 位争いは3 チームが団子状態。最終戦ではシリーズ2 番手争いを巡る戦いが熱くなりそうである。



■ KTCクラス(軽ターボのクローズドクラス)

このクラスは、ここまでの 3 戦で毎回勝者が変わっているが、シリーズポイント争いでは一度も表彰台を逃していない No.392「Zammersヴィヴィオ」が 47 点で頭一つリードしている。

これを 37 点の No.112「白須賀会カプチーノ」と、35 点の No.21「ZEST Lubrossセルボ」が追う展開。

シリーズ 4 位の No.46「カーエナジー ワークス アルト」と 5 位の No.95「マックイーン仕様カプチーノ」はポイントこそ離れているものの、十分に 1 位を狙える速さを持っており、今回も接戦が予想される。

■ 予選

予選 1 位となったのは、No.95「マックイーン仕様カプチーノ」でタイムは 1'07.000 をマーク。今回からゼッケンナンバーを変更し、カラーリングも映画カーズのマックイーンカラーにドレスアップ。

2 位は第 2 戦の勝者 No.46「カーエナジー ワークス アルト」が 1'08.276 で続く。

3 位には 1'08.608 でシリーズポイントリーダーの No.392「Zammersヴィヴィオ」が入り、好位置を確保する。

4 位の No.21「ZEST Lubrossセルボ」も 1'08.836 で続き、ここまでの各車は近いグリッドからのスタートとなる。

以下、5 位に 1'10.698 の No.112「白須賀会カプチーノ」、6 位に 1'13.946 の No.62「KS CARS MIRA」が続く。

■ 序盤

決勝 1 時間の時点では、1 回目のピットインを先延ばした No.95「マックイーン仕様カプチーノ」が 34LAP で 2 位に 5 週の差を付ける。

2 位以下のチームは 1 回目のピットインを終えており、2 位から 5 位までの 4 チームが 29LAP の同一周回で並ぶ大混戦となる。

2 位に No.392「Zammersヴィヴィオ」、3 位に No.46「カーエナジー ワークス アルト」、4 位に No.62「KS CARS MIRA」、5 位に No.112「白須賀会カプチーノ」のオーダーとなる。

6 位の No.21「ZEST Lubrossセルボ」も 28LAP に付け、残り時間が 2 時間あることを考えると、どのチームにも上位入賞の可能性が残る。

しかし 1 時間経過直後に、No.21「ZEST Lubrossセルボ」は無念のコースアウト。上位争いからは一歩後退してしまう。

■ 終盤

2 時間経過時点でも、No.95「マックイーン仕様カプチーノ」が 1 位をキープする。ピット回数の違いはあるものの、この時点で 71LAP を走行し、2 位に 5 週の差を付ける。

2 位の No.392「Zammersヴィヴィオ」は 66LAP、3 位の No.46「カーエナジー ワークス アルト」は 65LAP、4 位の No.112「白須賀会カプチーノ」は 64LAP、5 位の No.62「KS CARS MIRA」は 63LAP と、それぞれ 1 周ずつの差が付き、徐々にではあるがポジションが見え始める。

6 位の No.21「ZEST Lubrossセルボ」はレースに復帰するものの、56LAP にとどまる。



■最終結果

予選 1 番手から終始トップをキープした No.95「マックイーン仕様カプチーノ」が 108 周を走行し、嬉しい初優勝を飾った。このチームは第 2 戦でもクラス最多周回数を記録しながら、決勝中のペナルティ提示を見落としたために失格となってしまったが、今回見事に名誉挽回した。

2 位には 106LAP の No.392「Zammersヴィヴィオ」が入り、4 戦連続での表彰台をGETした。

3 位は 104LAP No.46「カーエナジー ワークス アルト」が続き、前回リタイヤのリベンジを果たした。

以下 4 位の No.112「白須賀会カプチーノ」は 102 周、5 位の No.62「KS CARS MIRA」は 101 周でチェッカーを受けた。

途中のコースアウトが響いた No.21「ZEST Lubrossセルボ」は 95LAP の 6 位に終わった。

今回の結果を受け、シリーズポイント争いでは No.392「Zammersヴィヴィオ」が 62 点で独走体制を築く。

2 位の No.112「白須賀会カプチーノ」は 47 点で、15 点の差があることから、最終戦で 6 位以上となれば自力での優勝を決めることになる。

3 位の No.21「ZEST Lubrossセルボ」は 41 点で追い掛け、最終戦での逆転 2 位に望みをつないだ。

また 4 位の No.95「マックイーン仕様カプチーノ」と 5 位の No.46「カーエナジー ワークス アルト」は共に 32 点で並んでおり、最終戦での結果がそのまま順位になってくる。

このクラスは最終戦で確実にポイントを取れば、現在の順位を確保できそうであるが、何が起るか分からないのが耐久レース。最終戦ではチェッカーを受けるまで緊張した状態が続きそうである。



■ KTOクラス(軽ターボのオープンクラス)

開幕戦から3連勝のNo.14「ガレージイシヤマアルトバン」は、シリーズポイント60点で、今回1位になればシリーズ優勝を確定できる。

シリーズ2位につけるNo.55「アビリティガレージワークス」は40ポイントと差を付けられているが、ここ2戦連続で2位と勢いがある。シリーズ3位以下はさらにポイントが開くが、3位のNo.666「ヴィスコンティIMWあると」は30点、4位のNo.210「ZEST Lubrossアルト」は27点、5位のNo.32「爆走あばれ馬DXLミニカ」は24点と、3チームで3位争いを展開する。

そんな中、昨年のKTOクラスのシリーズ優勝チームNo.8「グローバルカップチーノ」が、今年初めてこのクラスにエントリー。シリーズポイント争いは、こういった展開になるのであろうか。



■ 予選

予選1番手のタイムを出したのはNo.14「ガレージイシヤマアルトバン」。この日唯一の4秒台となる1'04.960を記録して、オーバーオールポールポジションを獲得する。

2番手にはNo.666「ヴィスコンティIMWあると」が1'05.827で続き絶好のポジションに付けるが、このチームは排気量アップハンディを負っているために、決勝では厳しい戦いが予想される。

3位に付けたのはNo.55「アビリティガレージワークス」でタイムは1'06.176。

4位のNo.210「ZEST Lubrossアルト」は1'06.378、5位のNo.8「グローバルカップチーノ」は1'06.470と、3位から5位までは連続グリッドでの接近戦となる。

6位のNo.32「爆走あばれ馬DXLミニカ」は1'09.233のタイムだが、新規格車のピット時間マイナスハンディーを活かして、どこまで順位を上げることが出来るのか。



■ 序盤

ポールスタートのNo.14「ガレージイシヤマアルトバン」であったが、スタートからわずか20分が経過したところでピットイン。マシントラブルが発生し、長時間のピット作業に入ってしまう。

その間、コース上では順位が大きく入れ替わる。1時間が経過したところでの1位は、予選5位から大きくジャンプアップしたNo.8「グローバルカップチーノ」。31Lapを周回する。

2位から4位までは30Lapでの争い。2位にはNo.210「ZEST Lubrossアルト」、3位にはNo.55「アビリティガレージワークス」、4位にはNo.32「爆走あばれ馬DXLミニカ」と続く。

5位には29LapでNo.666「ヴィスコンティIMWあると」が続くが、スタート時とは全く違った順位になっているところが興味深い。

No.14「ガレージイシヤマアルトバン」はなおもピットで止まったままだが、まだレースを諦めてはいない。



■終盤

2 時間が経過したところでも No.8「グローバルカップチーノ」が 1 位をキープする。ミスなく安定した速さで走り続けるスタイルは、昨年から全く変わらない。周回数は 69Lap を記録。

2 位には 68Lap の僅差で No.55「アビリティガレージワークス」が追いかける。

続く 3 位と 4 位はともに 67Lap で、No.666「ヴィスコンティIMWあると」、No.210「ZEST Lubrossアルト」が続く。

5 位の No.32「爆走あばれ馬DXLミニカ」も 66Lap で続き、ワンミスで大きく順位が入れ替わる展開が続く。

No.14「ガレージイシヤマアルトバン」は 2 時間が過ぎたところで一時的にコースに復帰したものの、間もなくピットに戻り、そのままリタイヤとなってしまった。



■最終結果

トップでチェッカーを受けたのは、No.8「グローバルカップチーノ」で 110 周を走りきった。総合でもトップとなり、久々のKTOクラス復帰に花を飾った。

2 位と 3 位は 109 週の同一周回での争い。この争いを制したのは No.666「ヴィスコンティIMWあると」であった。終始上位に付けていた No.55「アビリティガレージワークス」は、惜しくも 3 位に終わった。

4 位の No.210「ZEST Lubrossアルト」は 108 周で、わずかに表彰台に届かなかった。

No.32「爆走あばれ馬DXLミニカ」も 107 周と健闘はしたが、5 位でのフィニッシュとなった。

今回、シリーズ 1 位に付けていた No.14「ガレージイシヤマアルトバン」がノーポイントでフィニッシュしたことで、シリーズポイントは 60 点のままで変わらず。

今回 3 位になった No.55「アビリティガレージワークス」は 52 点となり、一気にトップに迫ってきた。また今回 2 位の No.666「ヴィスコンティIMWあると」も 45 点と得点を伸ばし、シリーズ優勝の可能性を残した。

最終戦に No.8「グローバルカップチーノ」がエントリーしてくれば上位に絡んで来ることは必至であり、シリーズ上位 3 チームは No.8 の動向を見ながら最終戦を戦うことになりそうである。

